

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	半導体PET-CT導入による患者投与量と職員被ばく線量の変化
	研究目的	<p>当院のPET-CTが15年前に導入したPET-CTから半導体検出器を用いたPET-CT（半導体PET）に更新した。半導体検出器の感度向上と受光面拡大により、検査時間の大幅な短縮が可能となった。使用する放射性医薬品も2社から1社に限定することで、放射性医薬品投与装置の手技簡略化につながり、投与手技時間のスループットも大幅に改善された。一時間当たりの検査枠を2から4（もしくは5）とし、一日当たりの検査枠が最大12から14に増加した。しかし、検査数の増加が検査の質低下や、職員の被ばく増加につながることも懸念された。</p> <p>半導体PET導入は患者投与量（被ばく線量）低下が見込まれる反面、件数の増加による職員の被ばく線量増加も予想された。半導体PET-CTが何をもたらしたのか、検査の質も担保されているかも含め、患者投与量（被ばく線量）や職員被ばく線量がどう変化したのかを調査した。患者被ばく線量の調査は、世界各国で設定が求められている診断参考レベルの日本版Japan DRLs 2020と照合することで、当院でのPET-CT検査の被ばく線量が全国的に高いのか低いのか判断できることに意義がある。</p>
	研究対象者	<p>患者の被ばく線量：2020年10月から2021年4月に当センターでPET-CTを受けた患者さん。</p> <p>職員の被ばく線量：看護師1名、医師1名</p>
研究期間	西暦 2021年6月7日～西暦 2021年9月30日	
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input checked="" type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	長瀬智明
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	放射線診断技術科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし